


☆公害による健康被害を許すな!

☆自然環境・生活環境の破壊を許すな!



ヤマシャクヤク

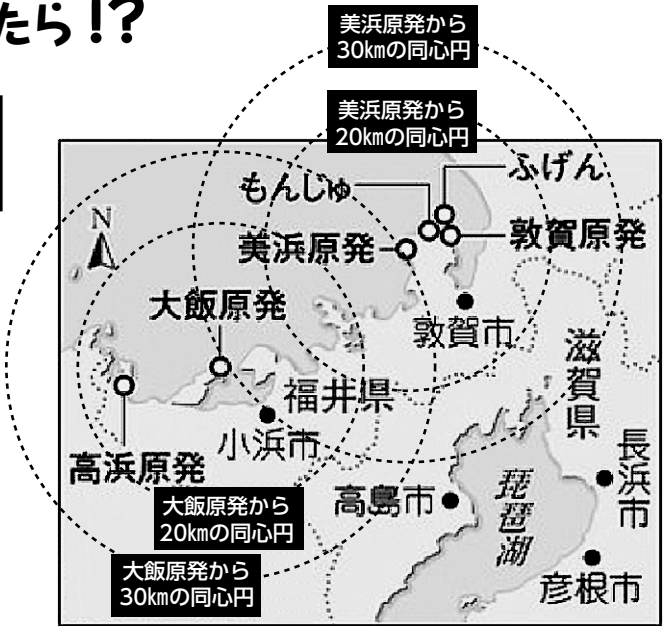
大阪から公害をなくす会 ニュース

大阪から公害をなくす会
〒540-0026 大阪市中央区内本町2-1-19
内本町松屋ビル10 370号
TEL 06-6949-8120/FAX 06-6949-8121
E-mail : oskougai@coast.ocn.ne.jp
URL http://oskougai.com/
発行責任者 金谷 邦夫
年間購読料一部2,000円(送料共)

琵琶湖が放射能汚染されたら!?

飲料水不足は致命的

福島第1原発の事故から3年以上が経過しましたが、事故炉4基は廃炉のめども立たず、海や地下水への放射能汚染は今も続いています。近畿地方でも「フクシマ」は他人事ではありません。若狭湾には営業運転13基、研究開発1基(もんじゅ)、廃炉予定1基(ふげん)の原発があります。ここで福島のような事故が起きた場合の、琵琶湖・淀川水系を水源とする水道水はどうか、飲用水・生活水はどうかについて、5月14日に開催された「保健所を守るおおさか市民の会」総会での中村寿子さん(科学者会議大阪支部)の報告の要旨を紹介します。



● 近畿 1700 万人の飲料水に影響

琵琶湖淀川水系の流域面積は8240km²、琵琶湖へ流入する河川は、直近の原発から20km以内に水源があります。原発事故時、放出された放射性物質を含む微粒子は、雨、雪、大気中の塵等とともに降下、樹木・草・土壌を汚染し河川に流入、流域全体から琵琶湖・淀川水系に集まり、神戸市なども含めて約1700万人の水道水飲用者が影響を受けます。

滋賀県琵琶湖環境科学研究センターや環境総合研究所のシミュレーションでは、北風の時、放射性物質は滋賀、京都、大阪から、和歌山県まで到達、北西風のときには琵琶湖が高濃度に汚染されるとのこと。セシウム (¹³⁴Cs、¹³⁷Cs) は浄水処理でほぼ除去できますが、その污泥処理が厄介です。福島原発事故時には、日本海側の新潟市浄水場でも污泥の処分に苦慮したと報じられています。一方、ヨウ素 (¹³¹I) は多くが水に溶けた状態で存在し、水道水に残留するとの報告があります(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター引用 Kosaka et al. 2012)。

● 役立たないボトル水・浄水器

琵琶湖・淀川水系の放射能汚染が報じられた場合、人々はボトル水や浄水器に頼るでしょう。わが国のミネラルウ

ォータの生産・輸入量はせいぜい年間 314 万トン (=860 万ℓ/日、2009年) 程度です。若狭湾で原発事故が発生した時、流域内居住者約 1500万人が仮に1日約7ℓを求めるとすれば、この量は日本のミネラルウォーター供給量の12倍以上です。また、さかんに浄水器の勧誘がされていますが、国民生活センターが警告するように、浄水器では飲料水の放射能除去に役立たない場合も多くあります。

● 放射能汚染リスクは他にも

琵琶湖淀川水系の放射能汚染リスクは若狭湾の原発事故だけではありません。2009年1月11日の『しんぶん赤旗』は、別の地方で産業廃棄物処分場から放射性物質を入れたドラム缶が発見されたと報じました。流域内の産業廃棄物処分場は大丈夫でしょうか。放射性物質を積載したトラックが高速道路を走るところも、市民に目撃されています。どんな交通事故が起こっても放射性物質が拡散することはないのでしょうか。日本中を往来しているアメリカの原子力空母はどうでしょうか。

近畿地方在住・在勤のみなさん、原発人災・放射能汚染は他人事ではありません。予防が大切です。放射能汚染から命と暮らしを守るためには、原発を含めて「非核3原則」(持たず、作らず、持ち込ませず)が重要と考えます。